

かねだ ふみお  
金田 文夫

自治労・書記長

## 06年を充実した年にするために

8月大会で自治労書記長になり、多忙だった1年が終わろうとしている。06年を充実した年にするために、自分なりに05年を振り返って今後の課題を考えてみた。

ひとつは9月総選挙の民主党の敗北である。自民党との議席差はあまりに大きかった。ただ票差はそうでもない。見方によっては今の選挙制度の影響がもろに現れた結果とも言える。結党以来の一民主党员として、労働組合と言う応援団の一員として、あまり悲観的に考えないようにしようと自分に言い聞かせている。とは言えつい思い返すのは、89年の参院選挙である。現在の消費税、当時は「売上税」としての導入が、今回の「郵政民営化」問題と同様に最大の争点となり、国民投票のような様相を呈した。その時は、反対を主張した当時の野党第一党社会党（私も当然応援していた）が勝利した。状況は似ていても争点が異なるので単純には比較出来ないが、「まさか」の解散による準備不足であり、政策争点づくりを含め遅れを取った結果だろう。少し厳しい言い方だが、民主党は歴史が浅く後援会組織や地方議員団を含む幅広い運動展開のための基盤づくりが遅れていたと思えてならない。もちろん応援団としての私達労働組合・自治労の弱さも自覚したうえで話で

ある。政界は何が起きるか解らないとは言え、この状況だと普通に考えるなら次の選挙は、07年の地方統一選、参院選になるだろう。つまり06年は久々に選挙の無い年になりそうである。ちなみに過去10年間で衆院・参院・統一地方選挙が全く無かった年は、97年と02年の2回しか無い。06年はその意味で貴重な1年である。自治労は6月に7年ぶりで組合員意識調査を行った。これから望む社会では、第一位が「犯罪の無い安心・安全な社会」、続いて「年金・医療等の老後に不安の無い社会保障の拡充」である。また、「自分達の今担っている仕事は社会的にやりがいのある仕事だ」と圧倒的に多くの組合員が認識している。公務・公共サービスに従事する組合員であり当然の事かも知れない。一方、選挙の投票の判断基準は「組合が推薦しているから」が最も多かった。これらを考えるならば、労働組合、自治労としてももう一度原点に立ち返って、多くの組合員が望んでいる社会をつくっていくため、そして、もっとやりがいのある仕事にしていくためにも、この国の政治を動かす、政策・制度をより良い方向へ変えて行く運動が大切である事を、改めて痛感している。久々に選挙の無い1年だからこそ、その事をしっかり認識し合える政治学習的な活動を追求



して行こうと思っている。

さて、05年はもうひとつ自治労にとって歴史的な出来事があった。ご存知の人も多いと思うが、8月の大会で「全国一般」との組織統合を決定した事である。ほぼ3年かけ、ようやく実現出来た。ただ、各県レベルでは、今後3年かけて完全統合を目指す事としている。「全国一般」は、1955年に結成され、地域の民間中小労組や個人加盟の組合員を含む合同労組として全国各地の地域労働運動に大きな役割を發揮してきた。その4割弱は公共サ・ビスエリアの組合員・単組であり、平和運動を含めて地域の運動を共に進めて来た仲間として一緒に産別運動を展開して行く事に繋がった。その結果、自治労の民間・労組法適用組合員は約8万人弱になる。正式統合は、06年の1月1日である。「全国一般」と自治労の歴史に文字どおり新しい一ページを書き加える事となった。地域の公務・公共サ・ビスを取り巻く状況は極めて厳しい。統合する「全国一般」の仲間と共に、地域で市民に理解される運動を進め、それを担いきる組織になる事が一層重要になっていると思う。

そんな中で年末には、政府が行政改革の重要方針として人員減と給与の引き下げを中心とする「総人件費改革の実行計画」を一方的に閣議

決定し、その推進法案も準備される事となった。全てを否定したり何でも反対するつもりはないが、しかし、現状は関係当事者との協議は何ら成されていない。公務員労働者に労働基本権が極く一部を除いて保障されていないからである。この事は、ご存知の人も多いと思う。政府がこの「改革」を実行しようとするならば、改めて公務員労働者の労働基本権問題をテ・ブルに乗せて議論するのが前提である。ILOが再三にわたってその事を日本政府に勧告している。政府は、正面から向き合うべきである。権利の回復、確立にはリスクを伴うかもしれないが、この問題は、06年の公務員労働者にとっての最大のテ・マの一つである。

12月14日には厚生労働省が労働組組合の組織率を発表した。0.5%下がり18.7%になった。このままでは労働組合、労働運動の存在感が危うい状況である。06年は、「全国一般」との組織統合と言う歴史的出来事をバネに、一層の組織拡大にも全力を挙げる事が、もう一方での最優先課題である事を改めて肝に命じて06年の任に当たりたいと思っている。